



# ハイライトよねやま 168

## 1 寄付金速報 — 下半期の寄付状況 —

2月までの寄付金は前年同期と比べ1.2%増、約1,200万円の増加です。普通寄付金が0.6%減、特別寄付金が2.2%増となりました。2月単月の特別寄付金が、直近5年間で2番目に低い金額となったものの、先月に引き続き、累計額ではこの5年間で最高額を維持しています。今後とも当会事業へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### さまざまなお寄付のカタチ

#### — 退会後から毎年10万円のご寄付 —

長崎南RCの元会員、小川春彌氏は5年前に退会後、クラブ事務局を通じて毎年10万円を寄付され、このたび50万円を達成されました。小川氏は、「ロータリーのプログラムで特に素晴らしいと感じたのは青少年の育成。もう二度と戦争に向かうようなことがあってはならない。平和を守るために大切なのは軍備ではなく、人を育てること。受けた恩を忘れぬ気持ちは世界共通であり、これらを具現化しているのが米山奨学事業だと思う。支援した学生が国を動かすようになるには時間がかかるが、継続が重要。命のある限り支援を続けていきたい」と、語ってくださいました。



ご家族に囲まれる小川氏(前列中央)

## 2 モンゴルに海外6番目の米山学友会が誕生！

海外6番目となる米山学友会がモンゴルで設立されました。3月1日にウランバートル市内で開催された創立記念祝賀会には、学友24人、日本からロータリアン9人のほか、元駐日モンゴル大使や在モンゴル日本国大使館一等書記官、フレールC会長など来賓を含む40人以上が参加。創立会員34人の中から、初代会長にジャンチブ・ガルバドゥラハさん(1998-99/山形北RC/現在フレールC会員)、副会長にバルジンニヤム・バトゾリグさん(2007-08/津久井中央RC)、ほか5人の役員が選任されました。ジャンチブ会長は「長年の夢をようやく実現することができた。日本のロータリアンが育ててくれた学友たちの力を結集し、皆で頑張っ

て活動していきたい」と、抱負を語りました。また同日、モンゴル国各省庁から表彰状および感謝状が当会理事長をはじめ、関係ロータリアンに贈られました。当日は地元メディアの取材もあり、ニュースなどで報道されました。



理事長に代わって表彰を受ける岩邊事務局長(左)



総会を歌で盛り上げたボロルマーさん(左)と受付・撮影・メディア対応の学友



締めくりは全員で「手に手つないで」



## 3

## 新地区補助金によるベトナム奉仕活動に米山学友が協力

第 2770 地区の越谷 R C では、新地区補助金による国際奉仕活動として、ベトナム出身のグエン・デュン・ティハイさん（2011-13/越谷 R C）の協力のもと、ベトナムの幼稚園に水のろ過装置を設置しました。今年 1 月 17 日、ダナン国際空港に降り立った一行をグエンさんの家族が出迎え、バスで 2 時間をかけてビンフー幼稚園に到着、贈呈式ではグエンさんが通訳をつとめました。グエンさんのカウンセラーで、現在、クラブ国際奉仕委員長をつとめる須賀定吉会員は、「バスに乗った我々に幼稚園の先生や園児、近所の人までが懸命に手を振り、見送ってくれた姿が今も目に焼き付いている。慣れない土地で任務を果たすことができたのは、グエンさんやご家族のおかげ。彼女のご両親からは日本のロータリーへの感謝の言葉もいただいた」と、喜びを語りました。



## おぼれ話



レ・グエン・フォンさん

いつも日本人を見かけたら、声をかけることにしています。今回はレストランで日本語の会話が聞こえたので、「お味はいかがですか?」と話しかけました。そうしたらロータリアンだということがわかり、驚きました。元奨学生として、ベトナムで日本のロータリアンにお会いでき大変嬉しいです。もっとお話しして地元を案内したかったですね。

越谷 R C の皆さんが夕食を済ませホテルへ帰る際、一人の青年が突然、「私は日本に留学し、ロータリー米山記念奨学生となって大変助かりました」と、話しかけてきたそうです。その青年はレ・グエン・フォンさん（2007-09/西那須野 R C）。2011 年に帰国後、国立ダナン工科大学建築学科で教鞭をとるかたわら、日本人を主な顧客とする個人設計事務所も開き、仕事に励んでいます。

## 4

## 17 年ぶりの再会に感激 —スレス・ダス・シュレスタさん—

昨年 10 月に創立されたネパール米山学友会の会長、スレス・ダス・シュレスタさん（1994-96/大阪天王寺 R C/現在カトマンズ R C 会員）が島根大学からの招へいで来日する機会を利用し、第 2660 地区の地区大会（2/21-22）に参加。その折り、高齢のため退会したカウンセラーと、17 年ぶりの再会を果たしました。

「知らせを受けた日から心は高揚し、待ち焦がれていた」と語る、カウンセラーの和泉俊治氏。スレスさんと共に学友会の設立に尽力した大阪在住の学友、ディネス・プラサド・シュレスタさん（1991-92/宝塚武庫川 R C）も交えた 3 人での会食は、ネパールの水資源開発や教育の問題、ロータリーや家族のことなど、尽きることのない話題に盛り上がり、時間を忘れるほどだったと言います。

「和泉先生はとても 88 歳とは思えない若々しさで、会ってすぐに“シュレスタ!”と昔と変わらない声で呼ばれ、20 年近い時を超えて学生の時に戻ったようでした」と、スレスさんは再会を振り返り、和泉氏も「彼の成長した姿、国の発展と専門分野の教育指導にあたる様子を知り、カウンセラー冥利に尽きる、楽しくうれしい、充実した一日でした」と、感激の言葉を寄せてくださいました。



スレスさん(右)とカウンセラーの和泉氏